

術前術後AFP-L3分画は肝細胞癌術後早期および長期経過後の再発予測に有用である

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 阪井, 守 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/31346

主論文の要旨

術前術後 AFP-L3 分画は肝細胞癌術後早期および長期経過後の再発予測に有用である

東京女子医科大学消化器外科学教室

(主任：山本雅一教授)

阪井 守

東京女子医科大学雑誌 第 85 巻 第 1 号 9 頁～15 頁 (平成 27 年 2 月 25 日
発行) に掲載

【要 旨】

Lens culinaris agglutinin-reactive fraction of α -fetoprotein (AFP-L3 分画) は肝細胞癌 (hepatocellular carcinoma : HCC) の特異的なマーカーであるが、術後再発との関連はまだ十分には検討されていない。われわれは AFP-L3 分画により HCC の術後再発を予測することが可能か否かをみるために術前術後の L3 分画と早期および長期経過後の術後再発との関連を検討した。

(方法) 対象は当施設で施行された HCC 初回切除 154 例で、術前および術後 6 ヶ月間に測定された L3 分画を 3 群 (Ⅰ; <0.5%、Ⅱ; 0.6 - 9.9%、Ⅲ; $\geq$ 10%) に分類し、術後 1 年における早期再発および術後長期経過後の無再発生存率との関連について検討した。

(結果) 術後 1 年の早期再発率との関連では、術前術後ともに L3 分画の 3 群間で有意差を認めた。長期経過後の無再発生存率との関連では術後は 3 群間で有意差を認めたが、術前 L3 分画のⅡ群とⅢ群の間には有意差を認めず、この 2 群については術後長期経過後の無再発生存において同等に扱う必要があると考えられた。L3 分画を 3 群に分けて詳細をみることは再発のリスクを考慮する上で重要な指標となり、L3 分画が正常値内であるⅡ群でも再発の可能性を念頭におき術後の経過観察を行うべきである。

(結論) 術前および術後 AFP-L3 値を 3 群に分けて検討することにより、HCC の術後早期および長期経過後の再発リスクを予測することが可能である。AFP-L3 分画は HCC 切除の根治性と術後再発のリスクを知るための有用なマーカーである。